

## 公共交通での旅 第4弾【山口・島根編】

こんにちは。中国運輸局交通政策部 北川です。

車を運転しない（できない？）私が、公共交通で旅した場所をご紹介します。

第4回目は山口県・島根県です。

12月某日（土曜日）。

今回の旅は広島駅からスタートです。いつもは一人旅ですが、今回は母との二人旅です。JR西日本が絶賛発売中の「やまぐち幕末 ISHIN きっぷ」を使って、新山口に向かいます。新山口からは萩へ直行の『スーパーはぎ号』に乗り、約60分で萩バスセンターに到着しました。

萩バスセンターは、萩・明倫学舎と東萩駅の間にあり、市民の交通結節点として利用されています。物産と喫茶もあります。萩バスセンターに荷物を預けた後は、ランチにちゃんぽんをいただきました。萩でちゃんぽんというイメージはなかったのですが、本格的な豚骨スープでした。

ランチの後は、萩城下町をぶらり散策、と思っていたのですが、折からの雨が強くなってきたので、萩循環まあるバスに乗ることにしました。バスセンターに戻ると、ちょうど西回りの「晋作くん」が来ましたので乗り込みます。ちなみに、東回りは「松陰先生」という名前で、いずれも1乗車100円です。

有人国境離島である見島への航路が発着する萩観光港や萩城趾、萩駅などの観光拠点を通り、スーパーも経由する路線で、ポンチョはおおかた座席が埋まっていました。30分弱の乗車で萩市役所に到着です。徒歩で萩・明倫センターに移動し、萩の歴史を学んだ後は再度「晋作くん」に乗りバスセンターに戻ります。「晋作くん」、「松陰先生」ともに30分間隔で運行しているので心強かったです。

バスセンターからは、長門市仙崎に向かいます。仙崎は一度訪問したことがありますが、今回の目的地は10月にオープンしたばかりの「センザキッチン」です。萩バスセンターからは防長交通 青海大橋行に乗り、1時間強の行程です。途中、市境あたりではバス停の間が5分以上空くなど面白い路線でした。「観光船乗り場」で下車すると、目の前に「センザキッチン」がありました。12月時点では、キッチン棟がオープンしており、直売所、カフェ、レストランが営業していました。直売所は地元の野菜・魚介類だけでなく、お惣菜も充実しており見ごたえがあります。キッチン用品も売られており、ひとめぼれした萩焼作家 坂倉善右衛門さんの食器を購入しました。来年4月にはダイニング棟がオープンし、レストランが充実するとともに観光案内所とおもちゃ美術館が新たにお目見えする予定。道の駅登録も決定したとのこと、仙崎のにぎわいの拠点となりそうです。



↑奥行きがあって素敵な空間です。（人が少ない瞬間を撮りましたが賑わっていました。）

←建物の中から海が見えます。

センザキッチンで1時間半たっぷり楽しんだ後は、宿泊地の長門湯本温泉に向かいます。センザキッチンから仙崎駅までは歩いて5分強の道のりです。仙崎駅には、長門市出身の金子みすゞさん、香月泰男さんに関する展示もあり楽しめます。仙崎駅からはサンデン交通 仙崎線準急便に乗りました。この便は、青海島の大泊から下関まで運行し、乗り通すと2時間半となる長大路線です。最近はこのような足の長いバスに非常に惹かれるようになりました。特に山口は長大路線が多いので、いつかバスで県を横断することを夢見ています。なお、仙崎駅バス停はシンプルで分かりやすいのですが、どのバスに乗れば長門湯本温泉に行けるかという案内がありませんでしたので、充実すると観光客の利便性が高まると感じました。約20分の乗車で湯本温泉駅バス停に到着です。宿にチェックインを済ませた頃には16時半でしたが、暗くなる前に温泉街の散策に出かけました。長門湯本温泉は、全国トップ10に入る人気温泉地となるべく、今年度から星野リゾートと連携して賑わい創出の取り組みを進めています。29年10月には、「おとずれりバーフェスタ」と題して川を楽しむイベントが開催されました。この日は、観光まちづくりのリノベーション第一号として、長門湯本温泉の空き家を再生したカフェ「cafe&pottery 音」を訪問しました。萩焼のギャラリーカフェで、センザキッチンで出会った坂倉善右衛門さんの作品もありました。こういうつながりが旅の楽しみですね。宿に戻り、お風呂とお料理を堪能して1日目は終了しました。

12月某日（日曜日）

2日目、目覚めると少し雪が積もっています。宿の部屋は、目の前に美祢線の線路があり、また美祢線は三年寝太郎や金子みすゞさんのラッピング車両があっても楽しい列車です。雪景色の美祢線を写真に収めようとしたのですが、列車の音で気づいた頃には遅く、結局撮影できませんでした。まだまだ修行が足りないようです。

この日は、津和野を目指します。まずは、長門湯本駅から東萩駅に向かいます。美祢線は座席が埋まる乗車率でした。途中、車窓から海岸線や萩特有の平らな火山島を楽しみ、1時間10分で東萩駅に到着しました。東萩駅は「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」の立ち寄り駅であり昨年外観が改修されています。

東萩駅からは、防長交通のバスで津和野に向かいます。このバスは1日5往復運行されていて、津和野までの所要時間は1時間50分、「やまぐち幕末 ISHIN きっぷ」で乗車可能です。美祢線同様、座席がほぼ埋まる状態で出発し、8割の方が津和野まで乗車されました。

津和野に到着後は津和野城を目指します。途中歩く町並みも趣があって素敵です。源氏巻のお店がたくさんあるのに驚きました。津和野城のふもとにあるロープウェー乗り場にたどり着きましたが、ちらつく雪と「熊の生息地です」とのお知らせに怖じ気づき登頂は諦めました。下から見える石垣は立派でした。次に城山の一角にある太鼓谷稲成神社に向かいます。津和野城に向かう道中、山の上にそびえる神社の姿が見えます。手水場にはお供えお揚げがありましたので一ついただいて参拝しました。参拝後は、約1000本の鳥居をくぐって城下町に戻ります。城下町では津和野カトリック教会を訪ねました。流罪となったキリシタンの歴史を知りました。酒蔵では店主さんがいろいろ教えてくださり、地酒初陣を購入しました。最後に、津和野町日本遺産センターに入りました。入場無料ということで入ったのですが、津和野の歴史、明治時代に描かれた「津和野百景図」、現代に受け継がれる鷺舞神事などについて詳しく知ることができました。ぜひ、津和野観光の最初に訪問されることをおすすめします。



旅の最後は、SLやまぐち号に乗ります。津和野と新山口を結ぶ観光列車で、29年は3月から12月まで運行されました。9月には新型客車が導入されており、レトロ感を残しながらも座席のテーブルにはコンセントも設置されている現代版となっています。当日は満員御礼で、はかまを着ている男性も乗車されていました。SLやまぐち号は撮影対象としても非常に人気で、沿道には多くの方が待ち構えていました。中には、線路脇の藪の中からベストショットを狙っている姿も見え、なぜか私がスリリングな思いをしました。新山口駅に、到着後役目を終えたSLが車庫に帰っていくのを見送って今回の旅は終了しました。今回は、二人旅だったこともありいつもより観光要素が強めとなりましたので、皆様の参考になれば幸いです。

## 【行程表】

1日目（土曜日）

広島駅→新山口駅（山陽新幹線）5680円 ※

新山口駅 9:35→10:38 萩バスセンター（防長交通 スーパー萩号）1,550円 ※

萩バスセンター 13:18→14:30 観光船のりば（防長交通 東萩駅前～青海大橋（青海大橋行））790円

仙崎駅前 15:58→16:20 湯本温泉駅（サンデン交通 仙崎線準急便（下関行））390円

2日目（日曜日）

長門湯本駅 8:38→9:47 東萩駅（JR 山陰本線）580円※

東萩駅 10:15→12:00 津和野駅（防長交通 東萩駅前～津和野（津和野バスセンター行））2190円 ※

津和野 15:45→17:30 新山口（JR 西日本 SL 山口号）乗車券 1140円 ※ <指定券 520円が別途必要>

新山口駅→広島駅（山陽新幹線）5680円 ※

交通費：10,700円

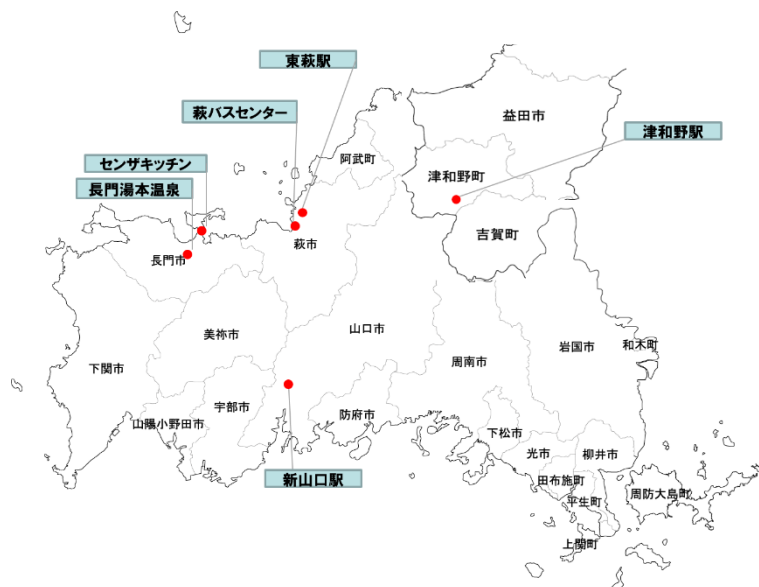
注：上記のうち、※印については、「やまぐち幕末 ISHIN きっぷ」（広島-山口で9000円）で乗車しました。

※バスの情報は、会社HPに掲載の時刻表又はWebの乗り換え案内での検索で調べることができます。

本記事に記載の情報はいずれも平成29年12月時点の情報です。

## 【地図】

今回訪問した場所の大まかな場所です。



<おまけ>

平成 29 年の振り返りとして、旅のアクシデントをまとめてみました。

①九州に行くときのこと。広島駅到着がぎりぎりとなり新幹線に乗り込んでほっと一息ついたときに、聞こえてきたのは「次は岡山」というアナウンス。いつもの癖で東京方面に乗り込んでいたのです。

九州では特急「ゆふいの森」を予約していましたが、すぐに折り返しても間に合わない時間で諦めていました。それでも岡山下車後すぐ折り返しの新幹線に乗り、車掌さんに特急の指定席キャンセルをお願いしたところ、小倉で乗り継げることを教えてください、無事乗車することができました。

九州北部豪雨の影響により、「ゆふいの森」が小倉駅・大分駅経由になっているため、乗り継ぎが可能となった出来事でした。あのときの車掌さんには大変感謝しております。

②広島県安芸太田町加計でバスに乗ろうとしていたときのこと。道が広くないこともあり、バス停は1方向にしか設置されていない道でした。そのため、向かいにバス停があるところで待っていたところ、乗ろうとしていたバスが走り去ってしまいました。しばらく追いかけたのですが追いつけず…。

諦めて元の場所に戻ると、10M 先に本来のバス停がありました。片方にしかないと思い込んで油断していました。バス停の場所は良く確認しないといけない、と改めて実感した出来事でした。

③岡山県鏡野町から新庄村に向かおうとしたときのこと。奥津温泉に宿泊し、翌朝早いバスで出る予定でしたが、温泉街もぶらりしたかったので、昼頃のバスに変更しました。そうすると、新庄村へはバスでは行けなくなるのですが、なんとか行こうと一番近いと思われる JR 駅からタクシーで行くことにしました。JR 駅に到着しタクシー会社に連絡すると、日曜日はお休みでした。休日の有無については事前の確認が必要と知った出来事でした。

平成 30 年も良い旅をしていきたいと思います。